

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月12日

協議会名: 見附市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
越後交通(株)	コミュニティバス (A直行)※補助対象外 (B通常) (B2通常名木野ルート) 【運行期間R1.10.1～R2.9.30】	①早朝便(おはようライナー)を新ルートに加え、通勤者のニーズに応えると共に、時刻表や運行時間の変更を行い、利便性の向上に努めた。また、ルート再編の準備のため、動態調査やアンケートなどを実施し、準備を進めた。 ②普段公共交通を利用しない人たちに対し、利用するきっかけを作るため、保育園や幼稚園児による車内外ラッピングを実施。(4回実施)保護者を始めとする関係者へ案内を行い、乗車のきっかけ作りを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B コミュニティバス利用者 ・実績167,243人 ・前年185,651人 ※目標達成率85.8%、対前年比90%(計画目標数は195,000人) ①新型コロナウイルス感染症が拡大し緊急事態宣言が発令された前後の3～6月は43,786人であり、前年同月比約73.8%であった。しかし、その間も含め減便することなく運行を行い、最終的には約90%まで回復することが出来た。そのことから、利便性向上の目標は概ね達成できたものと判断する。 また、各種調査については、多くの意見をアンケートで取ることが出来た。動態調査や人口分布等の調査を行い、予定通り準備を進めることが出来た。 ②計画通り、乗車のきっかけ作りを行った。 ③停留所にベンチ設置を行い待合環境の整備を計画通り行った。	・利用者目標169,000人(地域公共交通計画の目標数) ①コミュニティバスの効率的な運行。新計画を基に、ルート再編、時刻表の変更などの準備などを行う。 ②利用者にとって分かりやすい情報提供を行う。従来の時刻表の他、携帯版時刻表の作成、インターネットでの経路検索の整備を行う。 ③モビリティマネジメントの推進。普段公共交通を利用しない人への、利用促進を行う。
	コミュニティバス (おはようライナー)※補助対象外 【運行期間R2.4.1～R2.9.30】	③バス待合場所にベンチを設置し、整備を行った。(5箇所)			